

AKIBA HOLDINGS

2023年 3 月期

第 3 四半期決算説明資料

2023年 2 月10日



1. トピックス・概況
2. 2023年3月期第3四半期決算
3. 2023年3月期業績予想
4. セグメント別概況

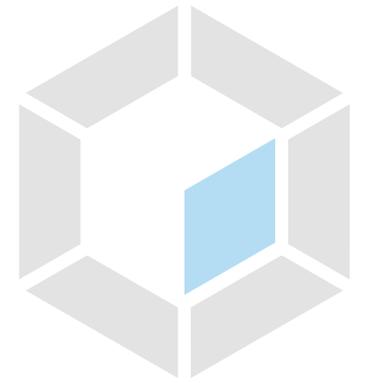
5. 参考資料

AKIBAホールディングスグループ 会社説明

※資料中の数字の単位は、別途指定ない限りすべて百万円

01

トピックス・概況



第3四半期累計期間として過去最高益

3Qとして営業利益及び経常利益ベースで過去最高益を計上

前第2四半期に続き、第3四半期累計期間として過去最高の営業利益及び経常利益を計上いたしました

通期業績予想を上方修正

PC特需の落ち着き等に起因し売上高については減収と修正するものの、各事業において順調に利益の積み上げが進捗している事、当初想定していた販管費の一部につき、実行されない見込みとなった事等により、各段階利益を見直し上方修正することといたしました

経済環境の変化に対応し骨太な事業基盤を構築

経済環境・社会環境の変化から不透明感が存在するため、先行きに対し注視が必要なものの、環境変化に対応したビジネスモデルの組み換えを実施し、安定した収益の獲得が可能な骨太の事業基盤の整備を推進

収益機会の拡大を目指し更なる事業の成長を推進

当社では、厳しい経済環境が継続する中、ビジネスモデルの一部修正などを実施し収益の安定化に努めたほか、通信コンサルティング事業、HPC事業において順調に事業が進捗した結果、2Qに続き3Qとしても、営業利益及び経常利益について過去最高益を達成しております。また、親会社株主に帰属する当期純利益についても、過去2番目の高水準となっております。

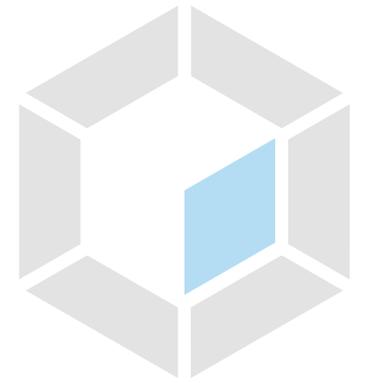
なお、通期業績予想は、PC特需の落ち着き等に起因し売上高については減収と修正するものの、各事業において順調に利益の積み上げが進捗している事、当初想定していた販管費の一部につき、実行されない見込みとなった事等により、各段階利益を見直し上方修正することといたしました。今後も、新規商材の投入、成長事業への戦略投資により、更なる収益の拡大を推進してまいります。

	2022/3 3Q 実績	2023/3 3Q 実績	前期比	2023/3 通期 前回予想	2023/3 通期 修正予想	前回予想比
売上高	11,603	10,377	89.4%	15,000	14,500	96.7%
営業利益	470	791	168.4%	780	900	115.4%
経常利益	473	759	160.6%	740	850	114.9%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	302	501	166.2%	460	530	115.2%
一株当たり 当期純利益	32.88円	54.64円		50.08円	57.70円	

※本資料に記載されている業績見直し等の将来に関する記述は、当社が本資料作成時点において入手可能な情報及び当該情報に基づく過程に依拠しているため、リスクや不確実性を含んでいることから、実際の業績等は様々な要因により業績見直し等とは異なる可能性があり、当社がその実現を約束するものではありません

02

2023年3月期第3四半期決算





メモリ製品製造販売
(メモリ・IoT)



株式会社アドテック

メモリ製品の製造・販売、IoTソリューション事業 等
※シーアールボックスは2022年10月1日にアドテックに吸収合併

通信コンサルティング
(通信建設テック)



株式会社バディネット、株式会社リーバン

エンジニアリング事業、コンタクトセンター事業、通信土木事業 等
※リーバンは2022年11月30日に連結子会社化

HPC
(高性能科学技術計算機)



株式会社HPCテック

高性能計算機の開発・製造及び販売事業

その他
(旅館ほか)

Diamond pets & resort

株式会社ダイヤモンドペット&リゾート

旅館事業、ペット商品事業、IT事業、イベント事業、不動産事業 等

AKIBAグループの事業規模拡大に伴い、経営指導料(※)の算定基準を見直し

AKIBAグループの事業規模の拡大に従い、各グループ会社での全社費用の負担の方法を見直し、本年度から、経営指導料の各子会社への配分額を修正いたしました。

※AKIBAホールディングスが各子会社に対して提供する、シェアードサービス及び経営管理に関する対価として、各子会社への業務などの提供内容に従い、経営指導料を徴収しております。

経営指導料

会計期	金額	備考
2023/3 3Q	96	2023/3より変更
2023/3 2Q	91	
2023/3 1Q	92	
2022/3 4Q	37	
2022/3 3Q	37	
2022/3 2Q	36	
2022/3 1Q	37	

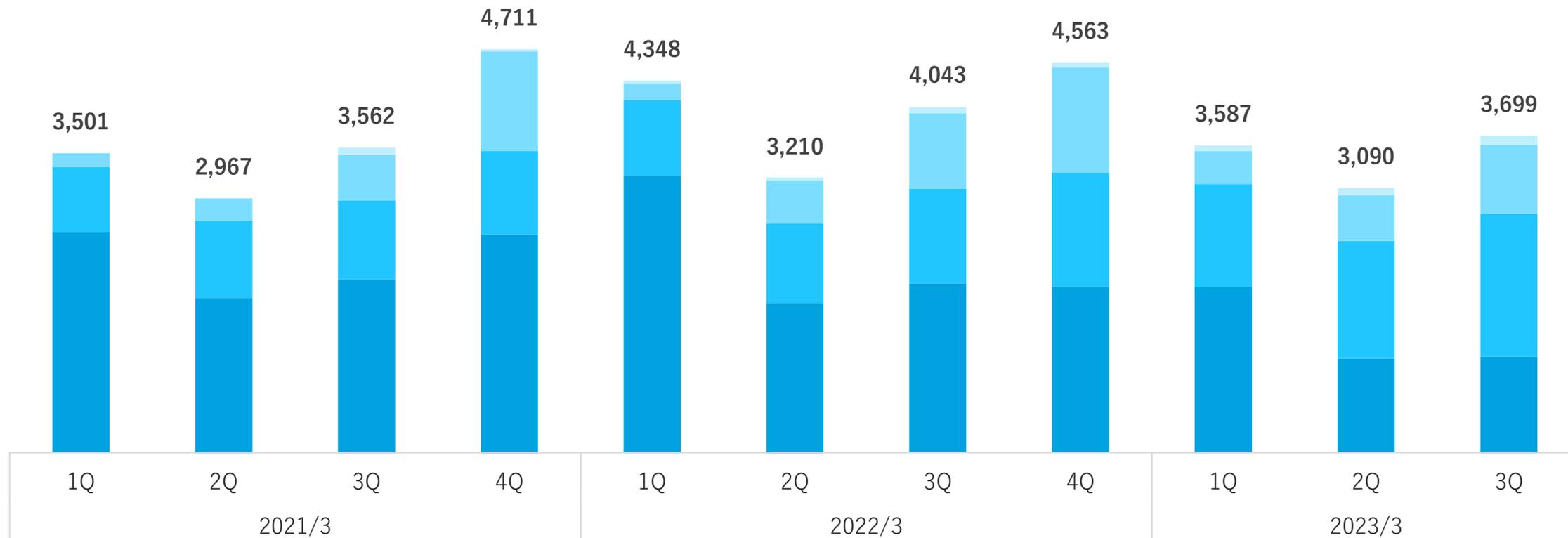
第3四半期累計期間として、過去最高益を達成

	売上高	前年同期比	営業利益	前年同期比	トピックス
連結	10,377	89.4%	791	168.4%	3Qとして過去最高益を達成
メモリ製品製造販売 (メモリ・IoT)	4,161	59.8%	142 (※)	52.3%	経済環境の変化などの要因により売上が減少しています。また、経営指導料の負担(※)が大きく利益額に影響がありますが、売上総利益ベースでは、単Qとして過去最高益となっております(P.20をご参照ください)。
通信コンサルティング (通信建設テック)	4,257	145.0%	393	165.5%	3Qとして売上・利益ともに過去最高
H P C (高性能科学技術計算機)	1,724	108.6%	174	172.4%	3Qとして売上・利益ともに過去最高
その他 (旅館ほか)	233	193.6%	82	—	(全社費用等の調整額を含む)

コロナ禍に起因したPC特需の落ち着きを主要因として売上高は減収

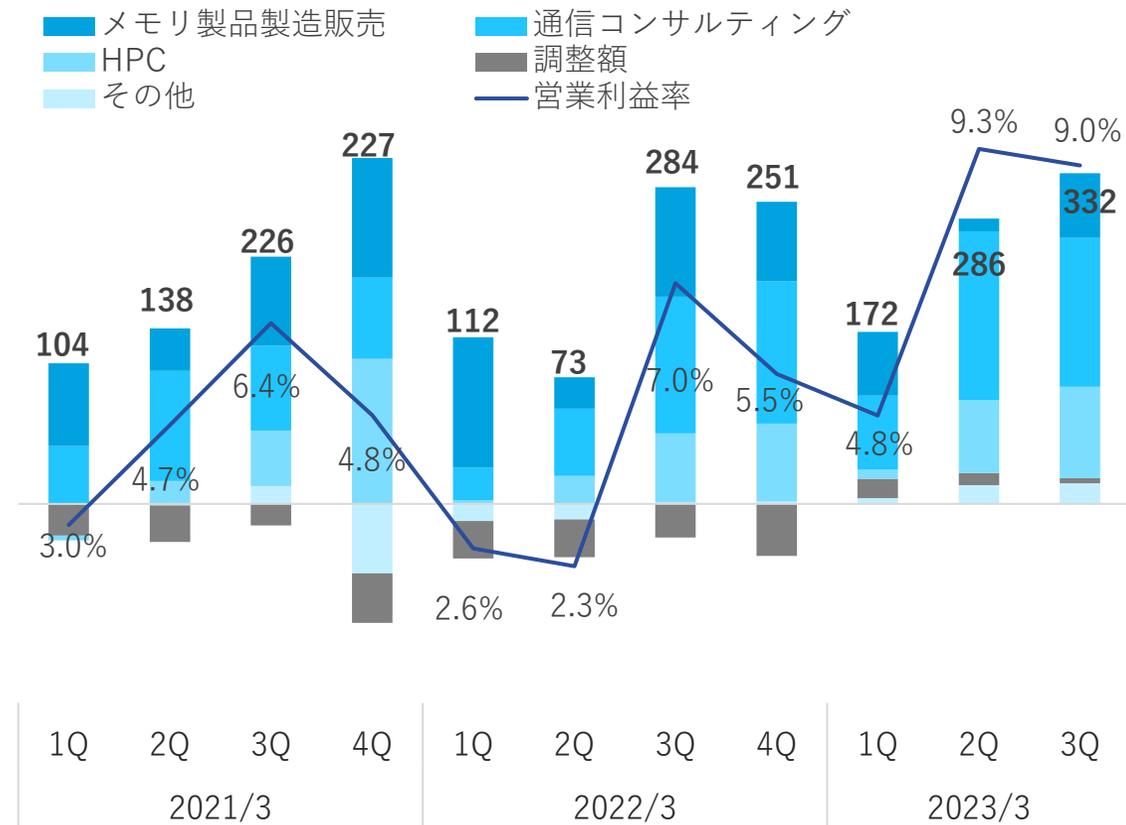
連結売上高

■ メモリ製品製造販売 ■ 通信コンサルティング ■ HPC ■ その他 ■ 調整額

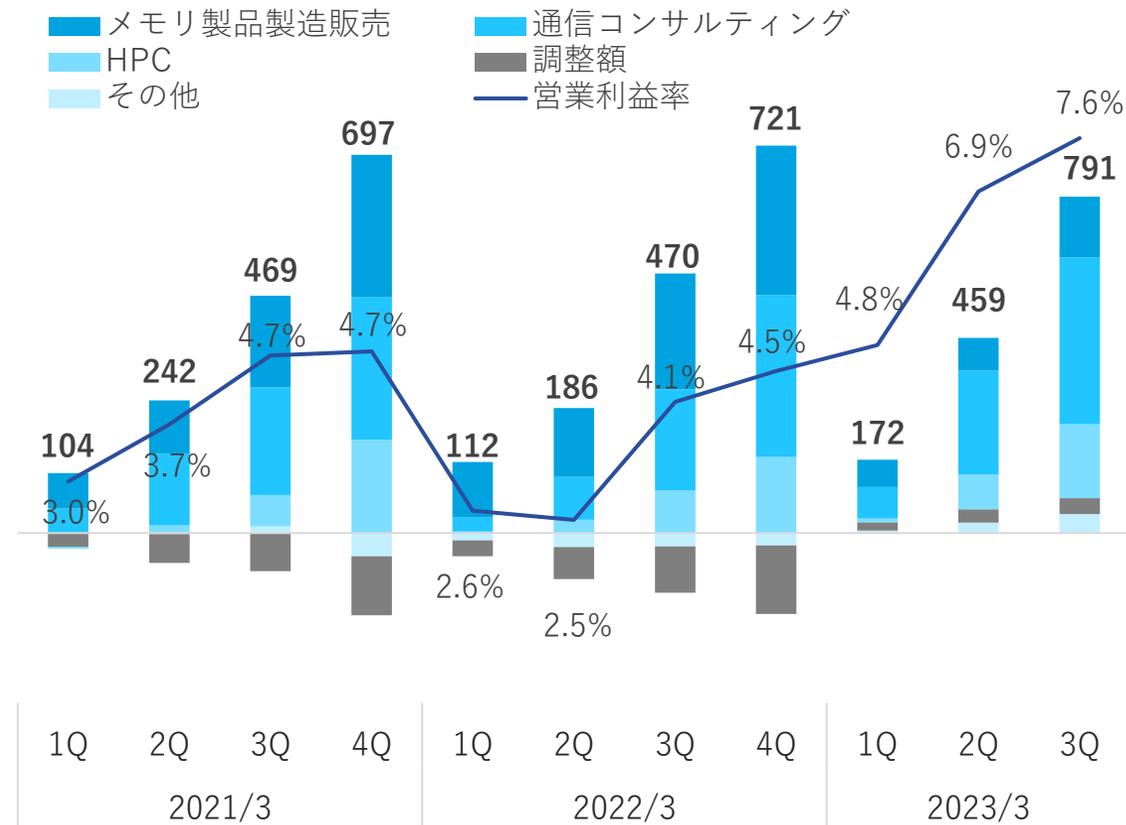


通信コンサルティング事業及びHPC事業が引き続き好調のため 単Q、累計とも第3四半期として過去最高益

連結営業利益 会計期間

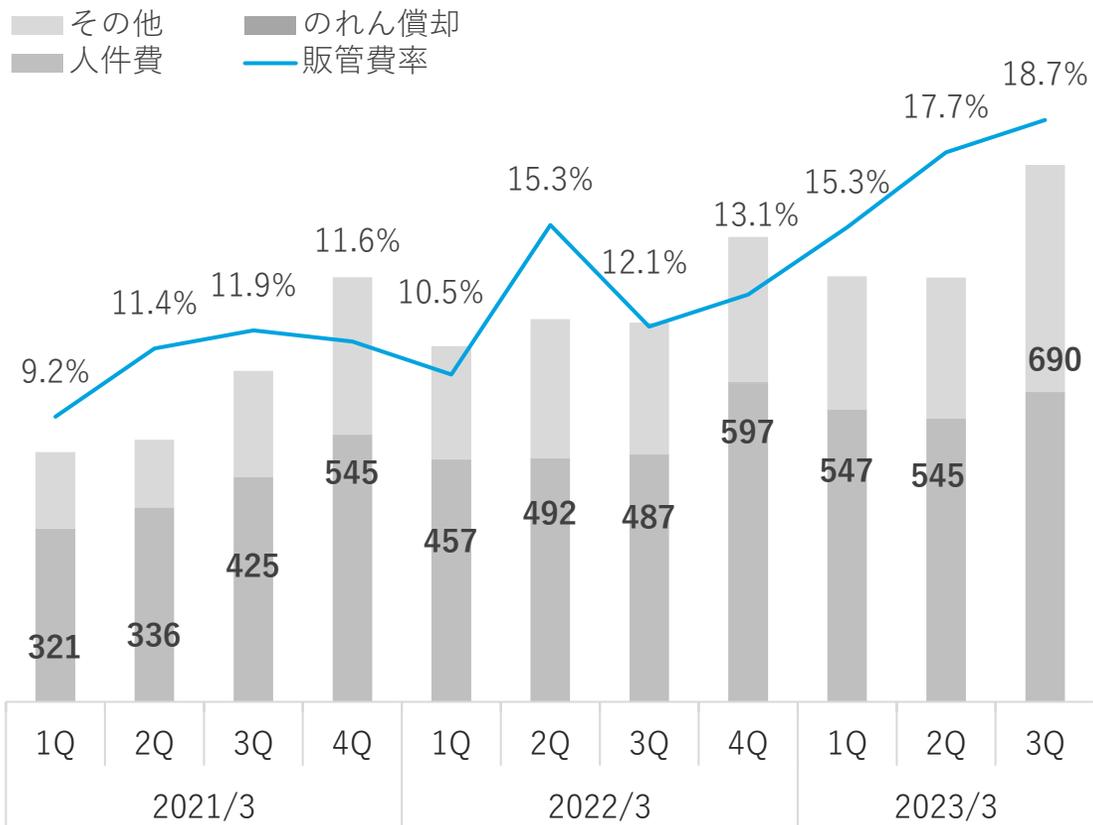


連結営業利益 累計期間

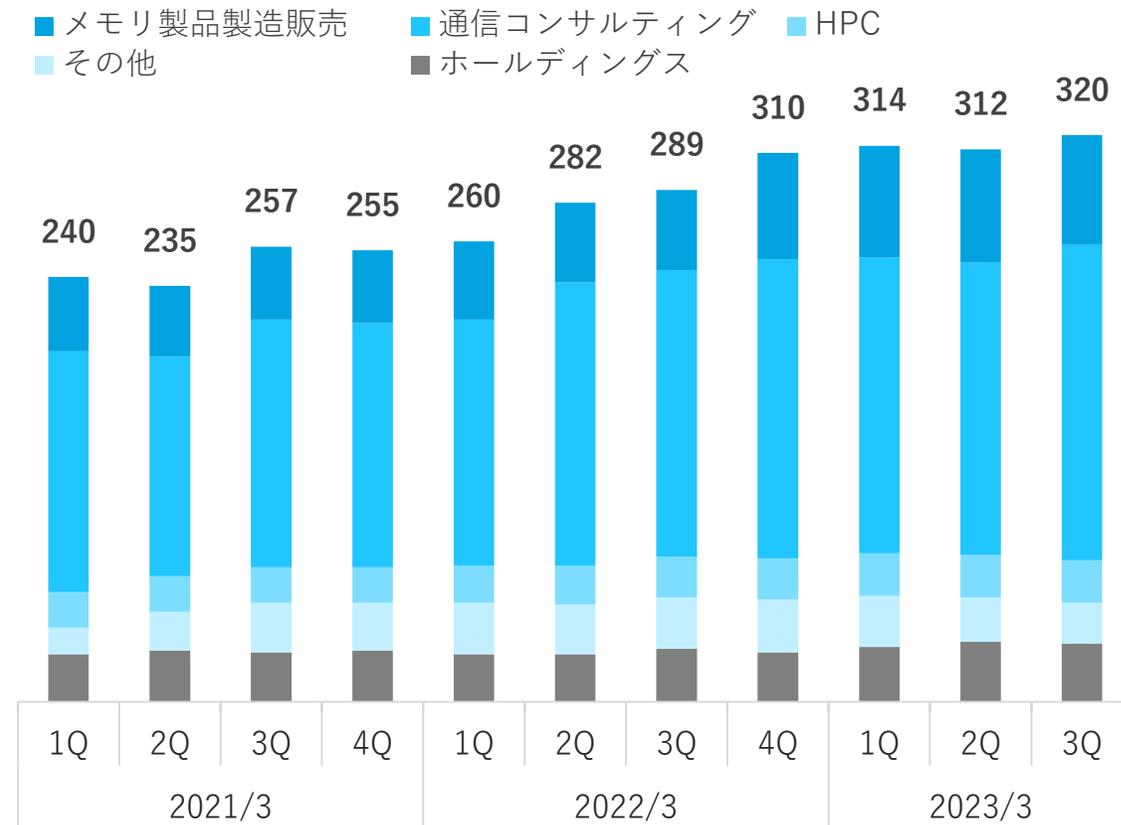


事業の拡大を推進するため、引き続き採用について強化の方針

販売費及び一般管理費



役職員数 (人)



事業環境を鑑み、前期末に比べ棚卸資産を積み増し

- 部材の調達難、長納期対策の継続、及びM&Aによるリーバン社のグループインにより棚卸資産は増加しているものの、決済の進捗により、買掛金残高及び現預金残高については減少
- 営業活動の進捗により売掛金が増加
- リーバン社のグループインによるのれんの発生等により、固定資産が増加
- 順調な利益の積み上げにより、株主資本は増加
- 資本金の額が1億円となる減資を実施

貸借対照表

	2022/3 4 Q	2023/3 3 Q	前期末比
流動資産	8,764	8,393	95.8%
現預金	3,753	2,757	73.5%
売掛債権	3,472	3,577	103.0%
棚卸資産	1,291	1,850	143.3%
固定資産	412	800	193.8%
繰延資産	-	-	-
資産合計	9,177	9,193	100.2%
流動負債	5,724	5,267	92.0%
短期借入金	2,950	3,050	103.4%
一年以内返済予定			
長期借入金	404	378	93.7%
買掛金	1,766	1,142	64.6%
固定負債	779	717	92.0%
長期借入金	622	494	79.4%
負債合計	6,504	5,984	92.0%
株主資本	2,424	2,926	120.7%
資本金	700	100	14.3%
利益剰余金	1,255	2,045	162.9%
負債・純資産合計	9,177	9,193	100.2%

減収するも堅実な利益の積み上げにより、 第 3 四半期として過去最高益

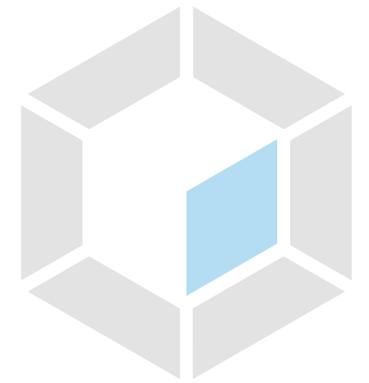
- 前期までのコロナ禍環境でのPC特需が落ち着いた事に起因し売上高については減収
- 事業構造の一部見直しを進め収益を安定させるほか、通信コンサルティング事業での受注件数の増加、HPC事業での収益環境の改善の推進により、稼得利益の積み増しなどから 2 Qに引き続き**大幅な増益**

損益計算書

	2022/3 3 Q	2023/3 3 Q	前期比
売上高	11,603	10,377	89.4%
売上原価	9,695	7,802	80.5%
売上総利益	1,907	2,574	135.0%
販売費及び一般管理費	1,437	1,783	124.1%
営業利益	470	791	168.4%
営業外収益	22	7	33.8%
営業外費用	19	39	205.6%
経常利益	473	759	160.6%
特別利益	45	-	-
特別損失	6	-	-
税金等調整前当期純利益	512	759	148.3%
法人税等合計	188	218	116.1%
当期純利益	323	541	167.1%
非支配株主に帰属する当期純利益	21	39	179.4%
親会社株主に帰属する当期純利益	302	501	166.2%

03

2023年3月期業績予想



通信コンサルティング事業、HPC事業が好調に推移したことにより、利益予想を上方修正

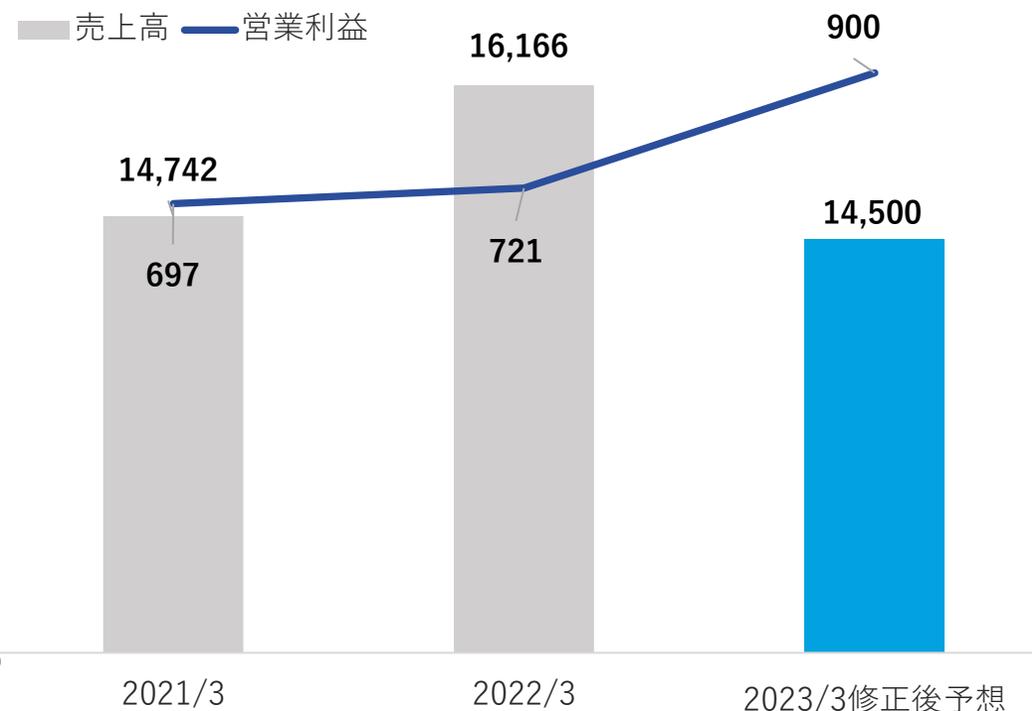
通期予想

売上高 : 14,500 前期比 : 89.7%

営業利益 : 900 前期比 : 124.7%

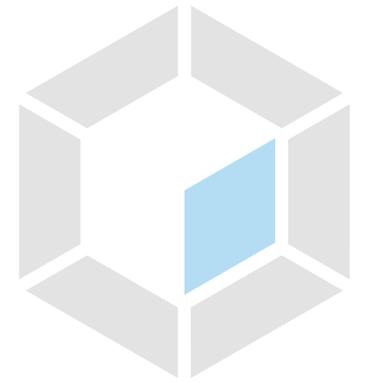
PC特需の落ち着き等に起因し売上高については減収と修正するものの、各事業において順調に利益の積み上げが進捗している事、当初想定していた販管費の一部につき、実行されない見込みとなった事等により、各段階利益を見直し上方修正することといたしました。

今後も、新規商材の投入、成長事業への戦略投資により、更なる収益の拡大を推進してまいります。



04-1

セグメント別概況 (メモリ製品製造販売事業)

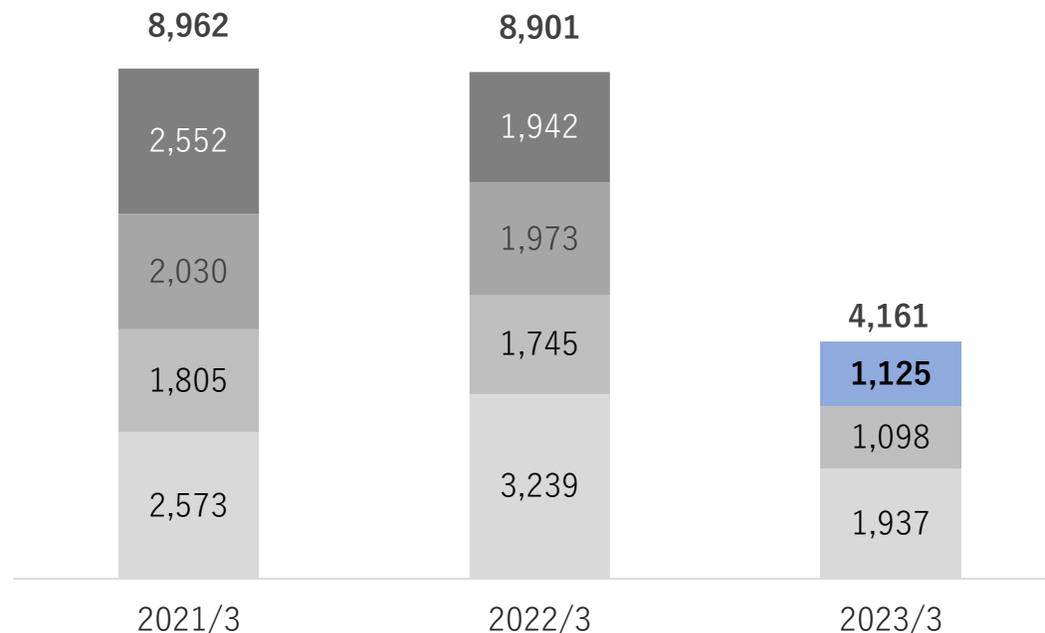


PC特需の落ち着きに起因し売上高については減収

- コロナ禍及びウクライナ危機及び米欧州並びに中国等のマクロ経済環境の変動等の影響から引き続き部材の調達環境などへの注視が必要
- 法人向けや産業用製品の需要は回復しつつあり、長納期化対策への対応を推進し、販売機会の拡大を図る
- PC特需の落ち着きに伴い、メモリ関連製品の売上高が減少しているものの、獲得利益に関する影響は小さい
- B2C向け商品の拡充を更に推進し、販路の多様化及び利益の獲得構造の多様化を図る
- 一次産業向けIoTビジネスの商品開発を促進し、新たな事業の柱として育成

売上高

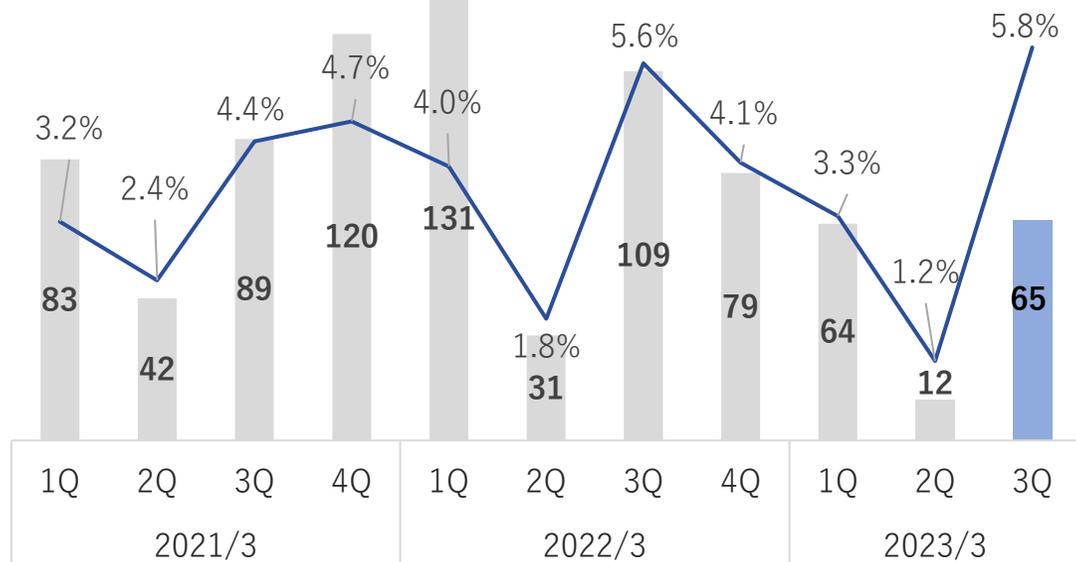
■ 4Q ■ 3Q ■ 2Q ■ 1Q



一時的な減益も、収益構造の見直しによる回復を推進

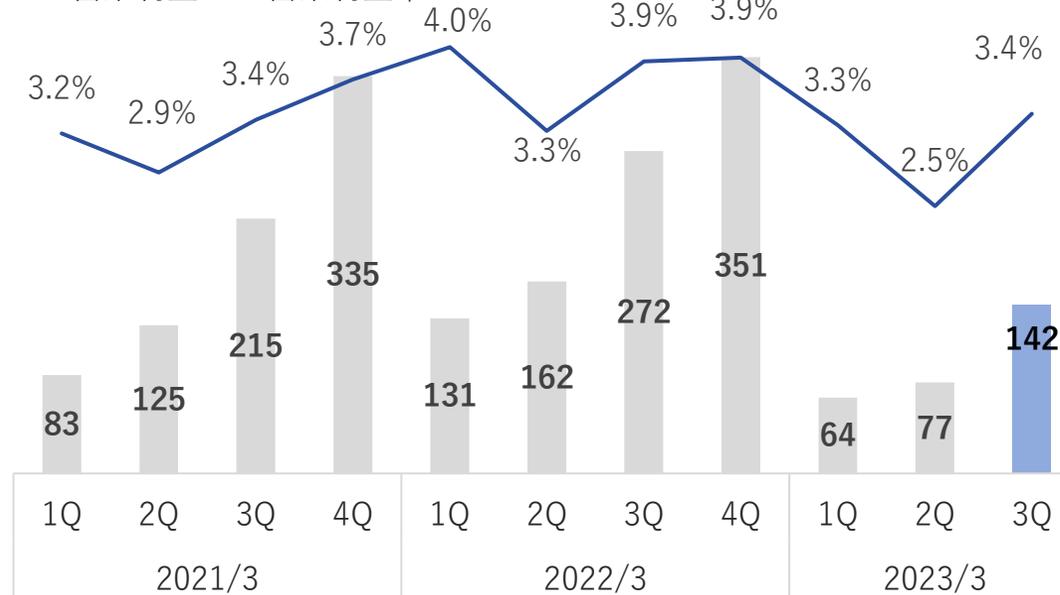
営業利益 会計期間

■ 営業利益 ■ 営業利益率



営業利益 累計期間

■ 営業利益 ■ 営業利益率

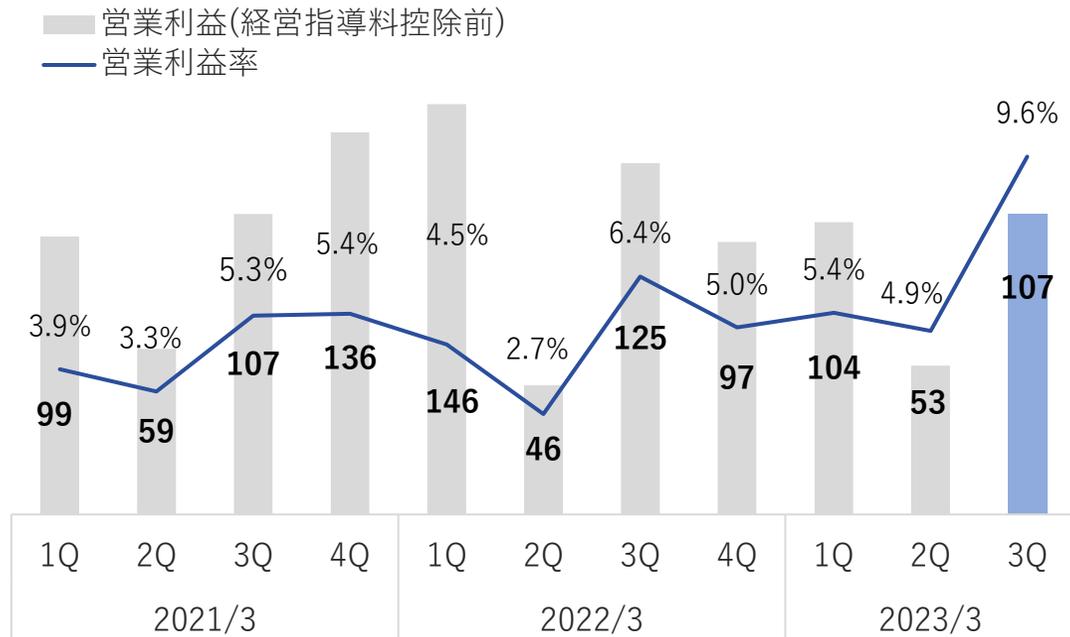


- 部材の調達難などにより電子部品の取得原価が高騰。代替品を利用したため、利益率の低下が発生していたものの回復基調
- サプライチェーンの滞留による部材の調達への制限が継続し、購入需要を全て消化しきれない環境は継続している
- 新製品の開発及び既存事業を活用した新ビジネスモデルの構築により収益獲得構造の見直しを更に推進していく

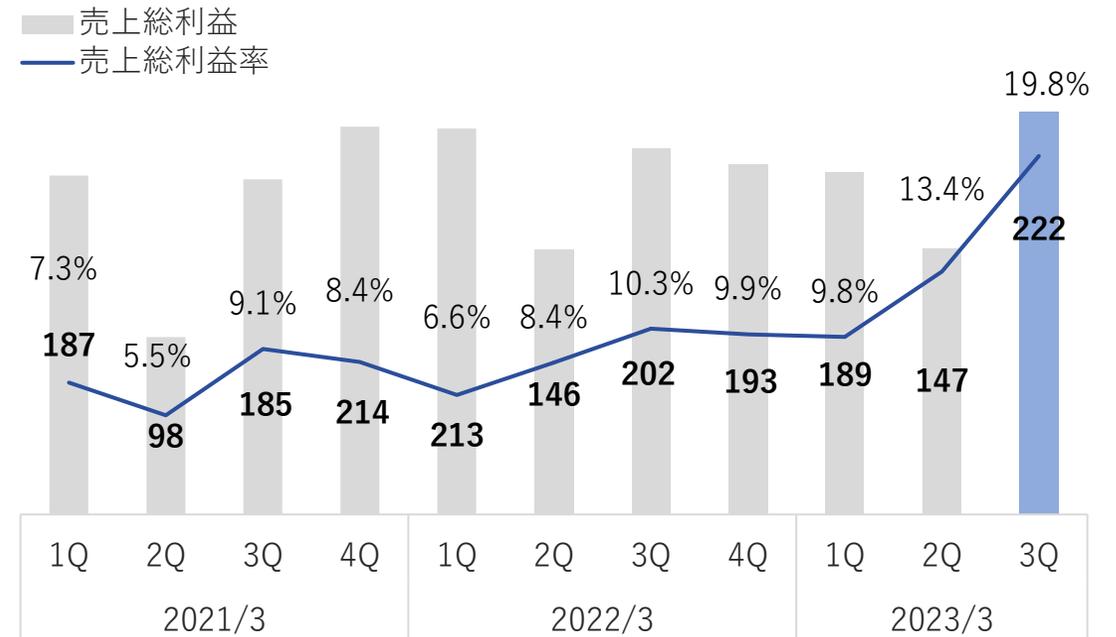
※販管費の増加及びこれに伴う営業利益率の低下が見られますが、内部費用の配分が主要因となります。(P.20をご参照ください)

経営指導料の算定基準の見直しに伴う過年度利益比較

営業利益（経営指導料控除前）



売上総利益



経営指導料の各子会社への配分額の修正による大幅な影響があるため(P.8 参照)、過年度との比較性を考慮し、通常の営業利益による比較に加え、営業利益から経営指導料を差し引いた利益及び売上総利益で、過年度比較を実施しております。

Other World Computing (OWC) の正規代理店として

「Thunderbolt & USB対応外付けストレージ、Thunderboltドック & ハブ、メモリカード & リーダー」販売開始

お客様のニーズに合わせた革
新的なソリューションを実現

大容量且つ精密なデータストレージを必要とする映像業界や医療業界、その他様々な産業向けやMacのプロユース向け製品供給及びソリューションの拡充を図り、更なるニーズに応えるための対応を進め、絶え間ない技術革新と顧客サービスの向上に取り組む、映像や音楽・マルチメディアといったクリエイティブやプロダクションのプロユースのお客様のテクノロジーを最大限に発揮するため、革新的な高いコストパフォーマンスのソリューションを提供いたします。

Other World Computing
(OWC)について

Other World Computing (OWC)は、アメリカのシカゴに本社を置くPC周辺機器のメーカーであり、1988年創業以来お客様へ、より良く効率的なワークフローを構築したいニーズに対して、様々なメモリ、ストレージソリューションを提供しているメーカーです。30年以上の歴史に渡り、OWCはApple向けメモリ、SSDのアップグレード製品を提供する老舗でもあり、Intel・Thunderboltテクノロジーを中心に、各種の外部ストレージドライブ、ドッキングステーション、拡張デバイス、メモリカードまで、全般的なデータソリューションを提供する会社です。シカゴ本社を含め、アメリカ国内に6箇所の拠点をもち、2019年以来、海外市場へ進出し、北米のカナダ分社、ベルギーにEMEA本部、台湾にAPAC本部をそれぞれ立ち上げました。

<https://www.owc.com/>
<https://www.owcasia.jp/>



産業用・組込用途向け フラッシュ 3D TLC NAND 搭載品を販売開始

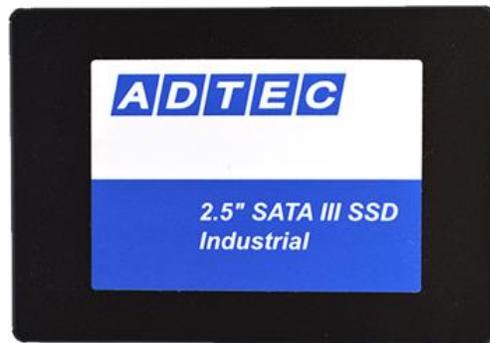
お客様のニーズに合わせた
幅広いご提案を実施

産業用向けで採用される NAND フラッシュとして一般的な、SLC (シングルレベルセル) や MLC (マルチレベルセル) に比べ、低価格、かつ大容量品、消去可能回数3,000回を保証した産業用3D TLC(トリプルレベルセル) NAND 搭載品を販売開始。

当社では、豊富な製品ラインナップの中から、お客さまのニーズに最適な製品を提供しております。



microSDカード



産業用途向け SSD (2.5inch)



産業用途向け SSD (mSATA)

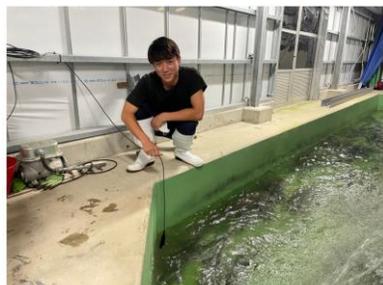


産業用途向け SSD (M.2)

クラウド対応型DOセンサー（溶存酸素計） 実証実験を実施

チョウザメの養殖で 水質監視を自動化

アドテックが提供するIoTソリューションである「遠隔水質監視システム」を利用し、実証実験を開始いたしました。この「遠隔水質監視システム」により、チョウザメの生育にとって重要である水中のDO（溶存酸素）の値と、水温を遠隔からリアルタイムで監視し、更なる効率改善と品質向上に貢献いたします。アドテックでは、養殖施設と言った一次産業分野でのIoTソリューションの提供を進めています。お客様のニーズに沿った様々なセンサをクラウド化し、製品化を進めてまいります。



現場に行かずとも 24時間水質監視が可能！ 遠隔水質監視システム

水中の溶存酸素、水温データを自動的にクラウドにアップするクラウド対応型のDOセンサーです。センサーの追加対応も可能です。

株式会社アクト・ノードの開発したアプリケーションACT.APP（アクト・アップ）と連携することにより、いつでも、どこからでも、スマートフォンやPCで、簡単に水質の状態を確認することができます。

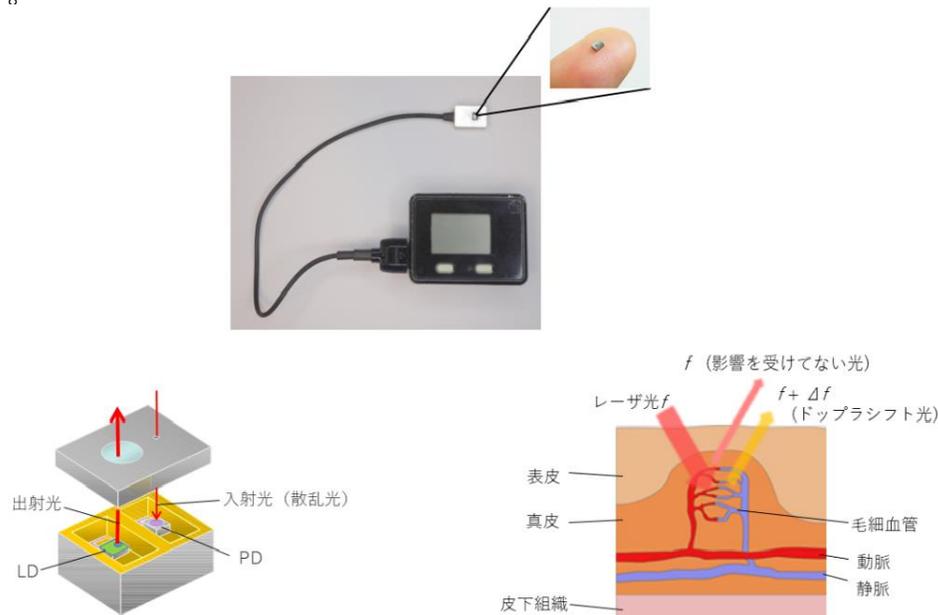
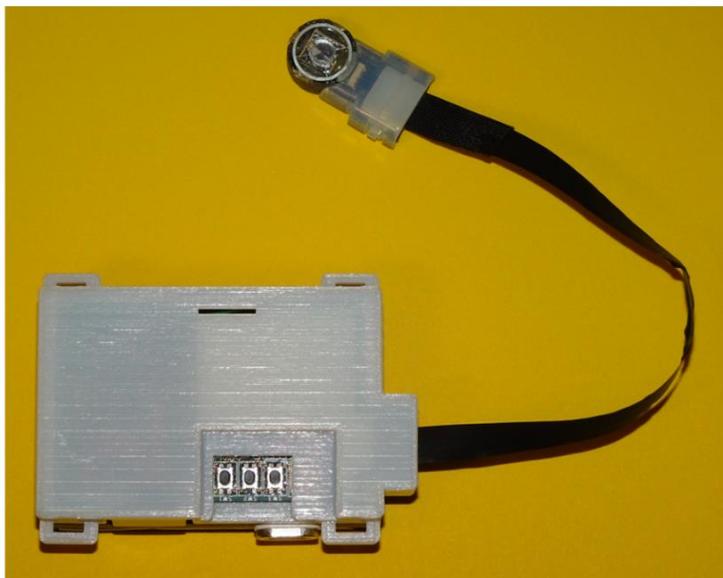


国立大学法人九州大学・Palmens株式会社との「MEMSマイクロ血流量センサ」製品化に向けた共同開発を開始

～世界的技術競争力強化に向けたアドテックの初の産学連携への取り組み～

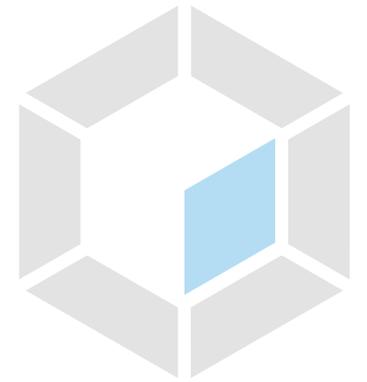
MEMSマイクロ血流量センサ

これまで医療機器などの様々なハードウェア開発の実績から、IoTを社会実装する事業を進めてまいりました。社会課題に対する様々な取り組みの中で、特に重要となっている少子高齢化社会への対応においては、健康状態のデータ収集及び分析を行うためのデータベースの構築が求められています。これを実現するためには、簡易的かつ高精度に個々のバイタル情報を把握する事が必要不可欠であり、この度、高精度に計測可能な「MEMSマイクロ血流量センサ」について、特許保有者である国立大学法人九州大学及び開発者であるPalmensとの間で、特許利用に関する契約及び開発に向けた契約を締結し、人生100年時代に向けた健康づくりを見据え、次世代ヘルスケアサービスソリューションの研究開発を実施しております。



04-2

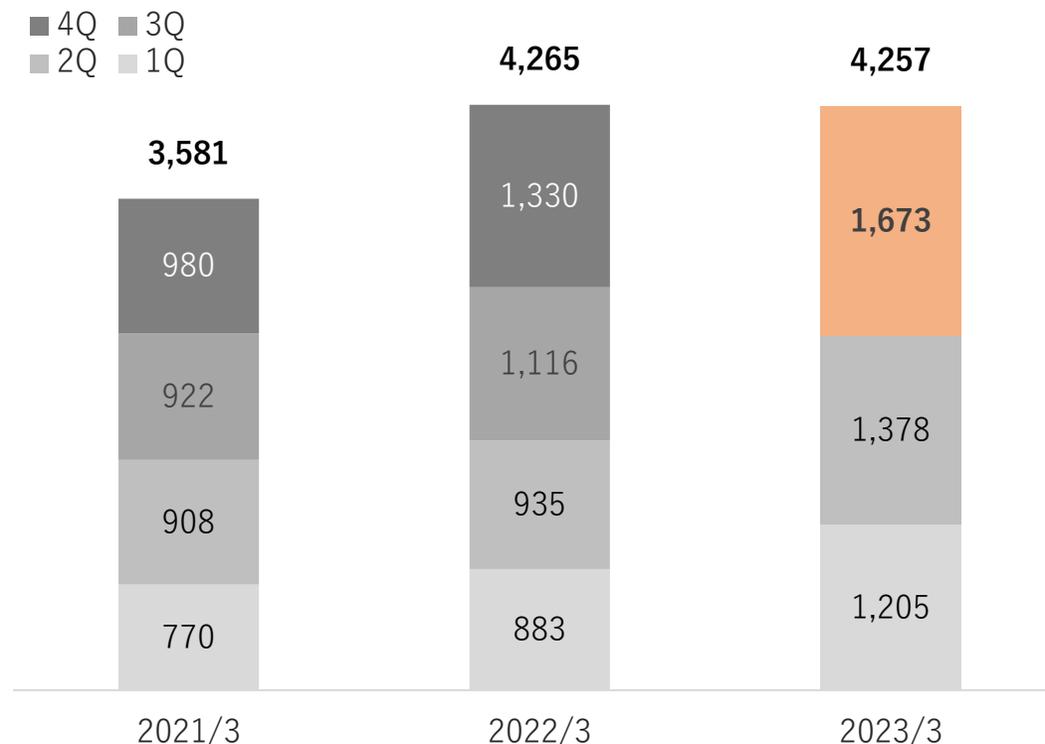
セグメント別概況 (通信コンサルティング事業)



事業全体の積み上げにより単Q及び3Q累計ベースで過去最高の売上を計上

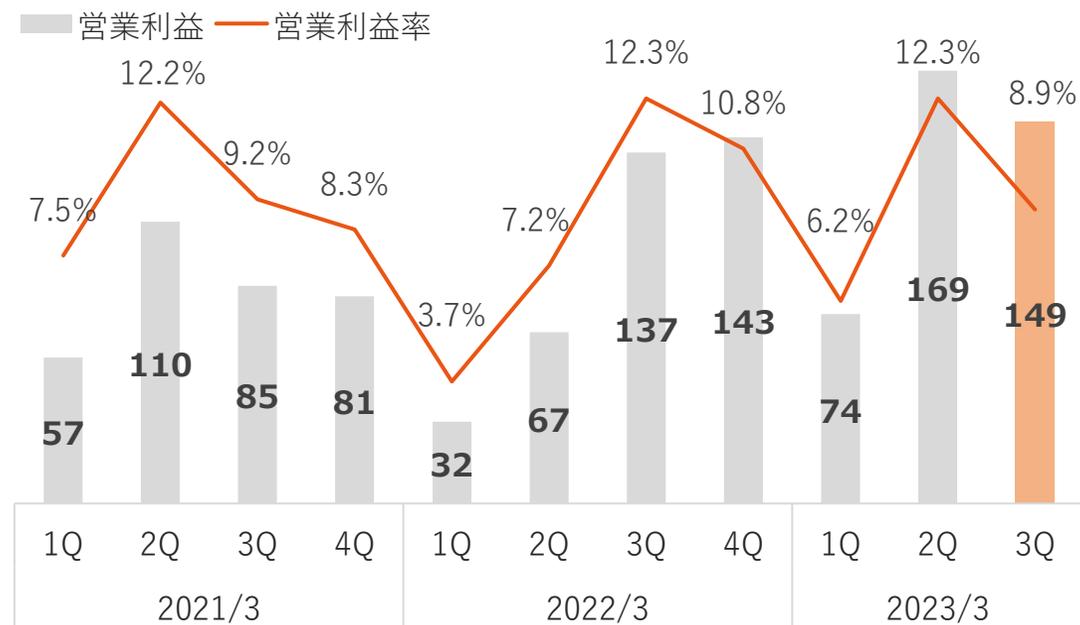
- キャリア3Gサービス終了に伴う関連工事が引き続き堅調、通信建設工事の受注件数も高水準を維持
- コンタクトセンター事業において各種新規案件の獲得を推進し受注件数が伸長
- 既存事業の強化及び新規案件の収益化の推進により、更なる成長を図る方針。なお、11月付で中四国地方に強みを持つリーバン社をグループインし、更なる事業の拡大を推進。リーバン社の損益のP/L計上は4Qから開始の予定。

売上高

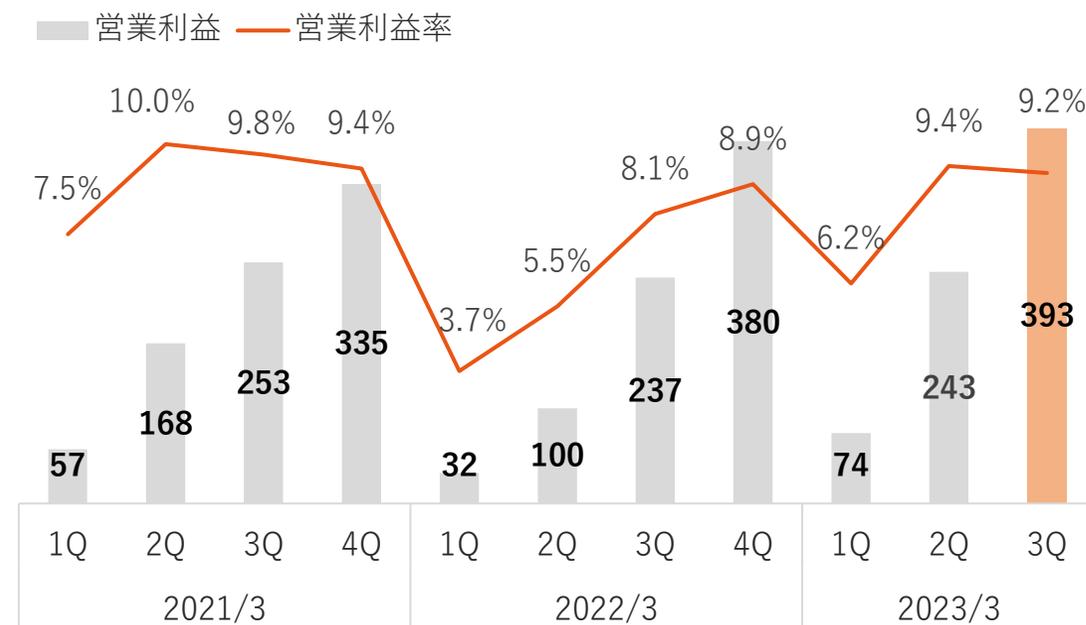


CM及びM&A費用を吸収し、3Q累計で過去最高益を達成

営業利益 会計期間



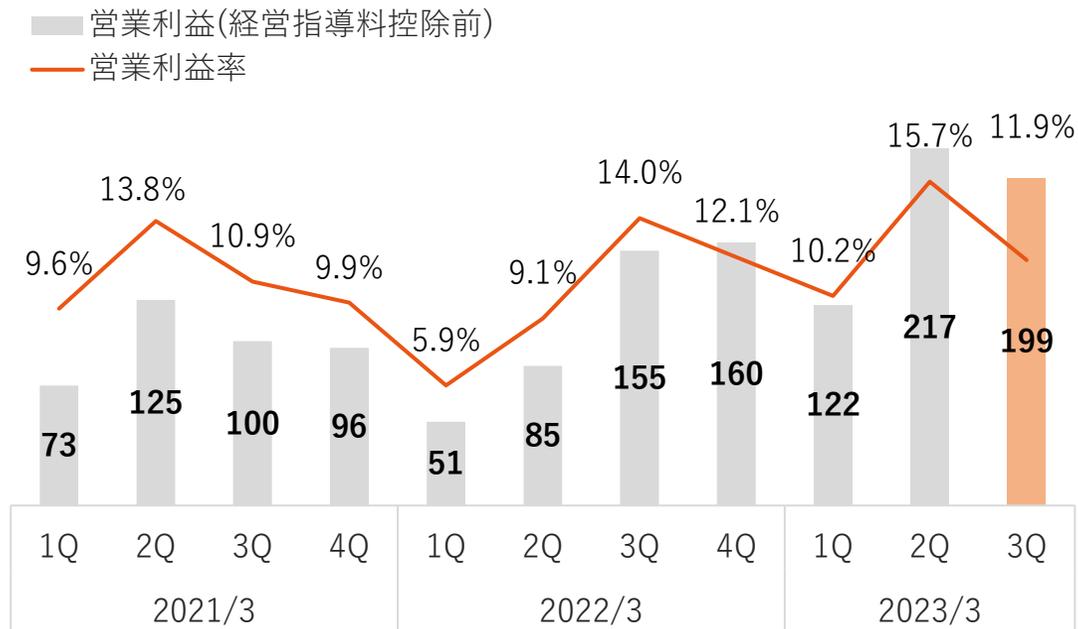
営業利益 累計期間



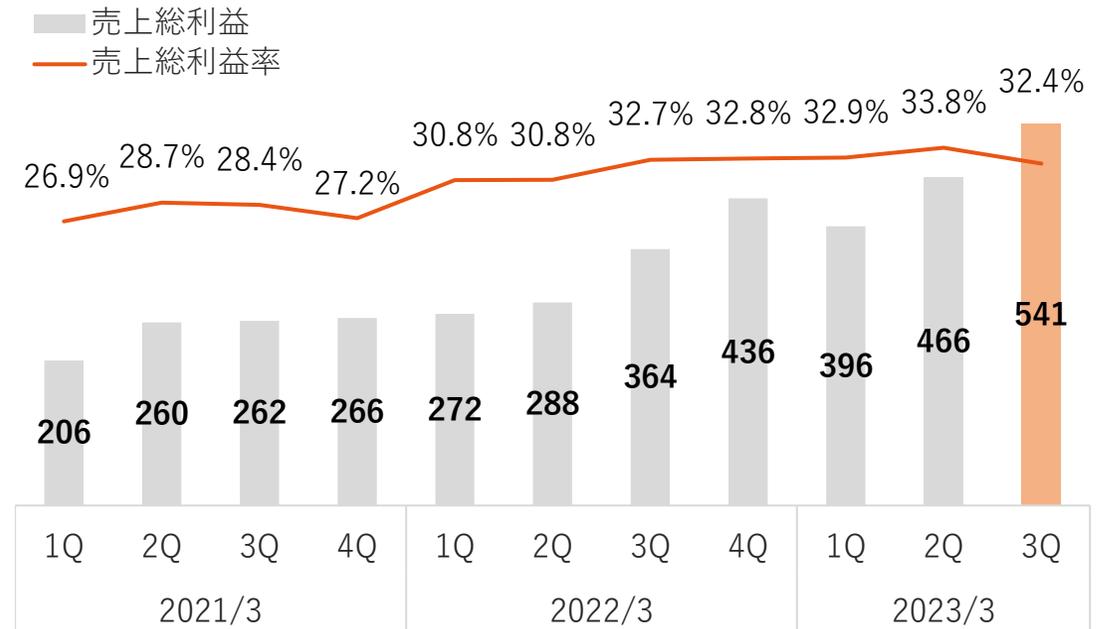
- 順調に事業が進捗し、3Q累計として、前年度通年の獲得利益額を超え過去最高益を達成
- キャリア3Gサービス終了に伴う関連工事を中心に各種通信建設案件の受注件数が拡大
- コンタクトセンターの増床に伴う受電体制の最適化により効率化が推進され、収益性が向上
- 3QにおいてCM及びM&Aを実施したため一時費用が発生しており、営業利益率の一時的な低下が生じております(P.29~31をご参照ください)

経営指導料の算定基準の見直しに伴う過年度利益比較

営業利益（経営指導料控除前）



売上総利益



経営指導料の各子会社への配分額の修正による大幅な影響があるため(P.8 参照)、過年度との比較性を考慮し、通常の営業利益による比較に加え、営業利益から経営指導料を差し引いた利益及び売上総利益で、過年度比較を実施しております。

タレント「みちよば」さんを起用したプロモーションを実施



2022年10月3日（月）～
株式会社バディネット 新WEBCM 解禁!!

タイトル : 「世界を変えるために篇」

出演者 : 池田美優、橋本 望

本編動画 : <https://youtu.be/0AQx1r3X92E>

特設サイト : <https://buddynet.jp/yarudake/>

Now on Air !!

PR発表会実施

2022年10月3日（月）に「バディネット新CM発表会」を青山グランドホールにて開催



M & Aにより株式会社リーバンの株式を取得（子会社化）

- ・ 中国エリア全域の施工体制（リソース拡充、現場力強化、拠点増加）を強化
- ・ リーバン社の保有する全国でも貴重な通信土木工事のノウハウを新たに加え、事業領域の更なる拡大を目指す



移動体通信
工事業



再生可能
エネルギー
工事業



電気通信設備
工事業



通信土木
工事業

会社名 : 株式会社リーバン

代表者 : 代表取締役 大谷 訓

所在地 : 島根県松江市宍道町伊志見71-19

事業内容 : 携帯電話の基地局工事を中心とした工事業

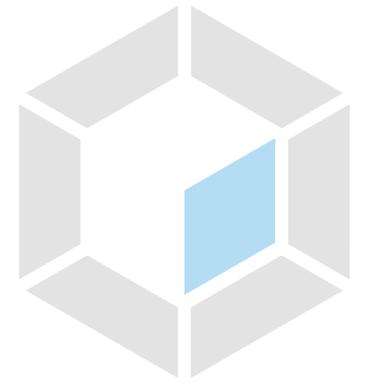
資本金 : 150万円

売上高 : 624,310千円 / 2022年9月期

URL : <http://www.leavan.jp/>

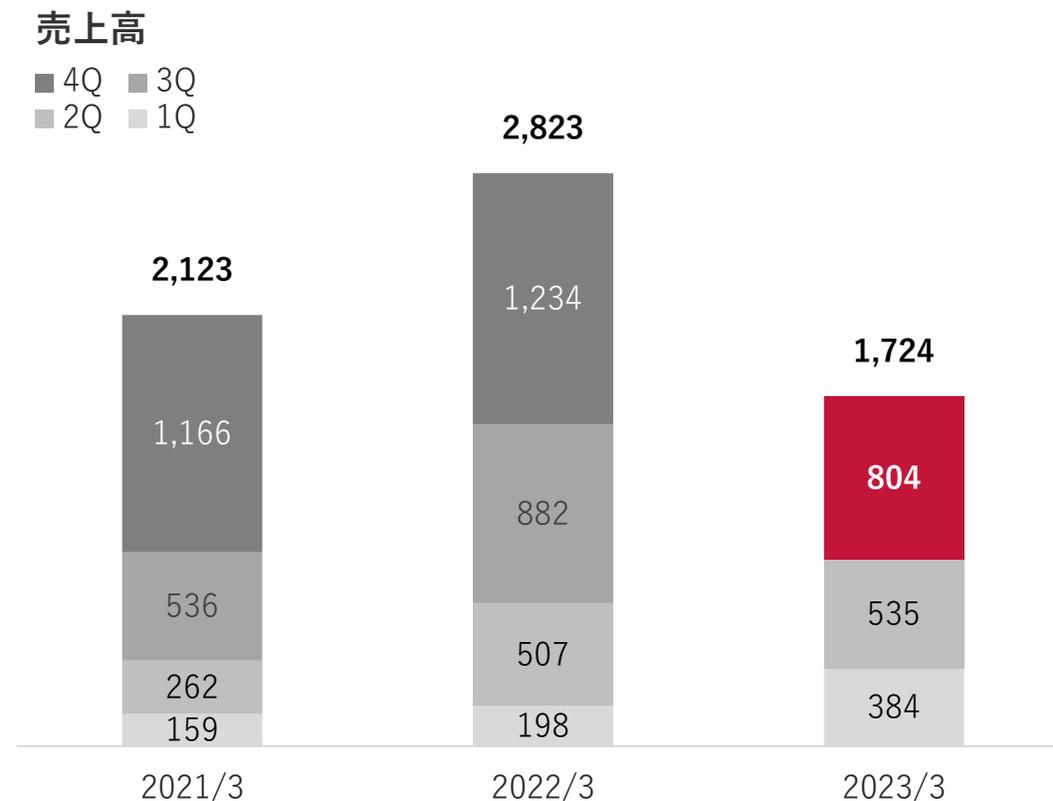
04-3

セグメント別概況 (HPC事業)



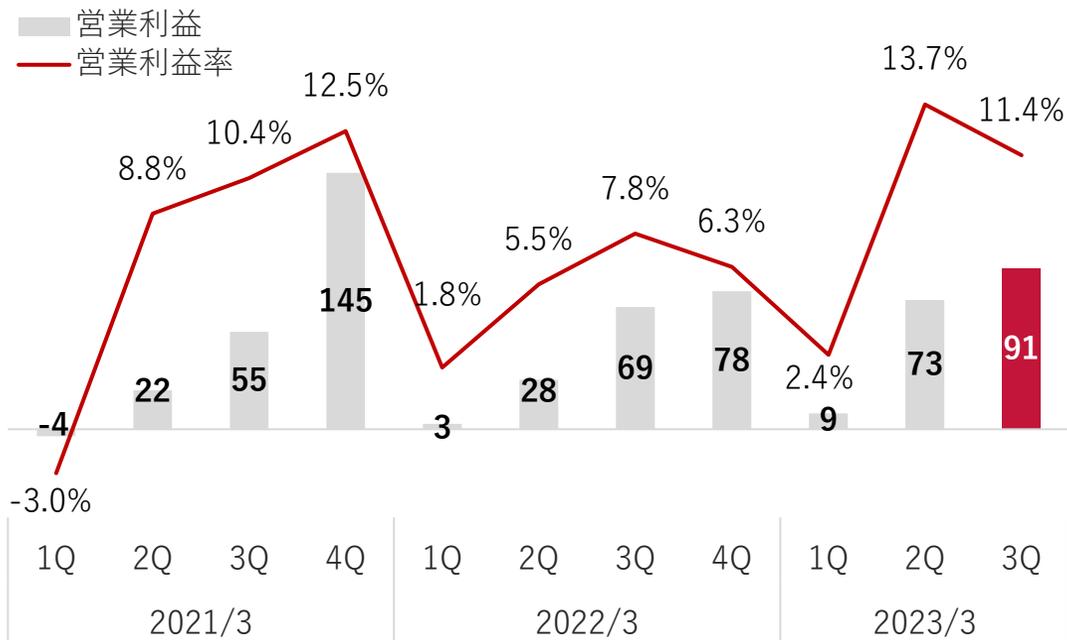
堅調に売上を積み上げ、2Qに引き続き 3Q累計で過去最高の売上高を達成

- 人員増強及び拠点増設の効果により売上拡大が継続
営業人員の販売力強化を推進し、更なる収益力の向上に努める
- コロナ禍の影響により減少していた学会の再開が進む
対面販売の機会を増加し、更なる売上の拡大を図る

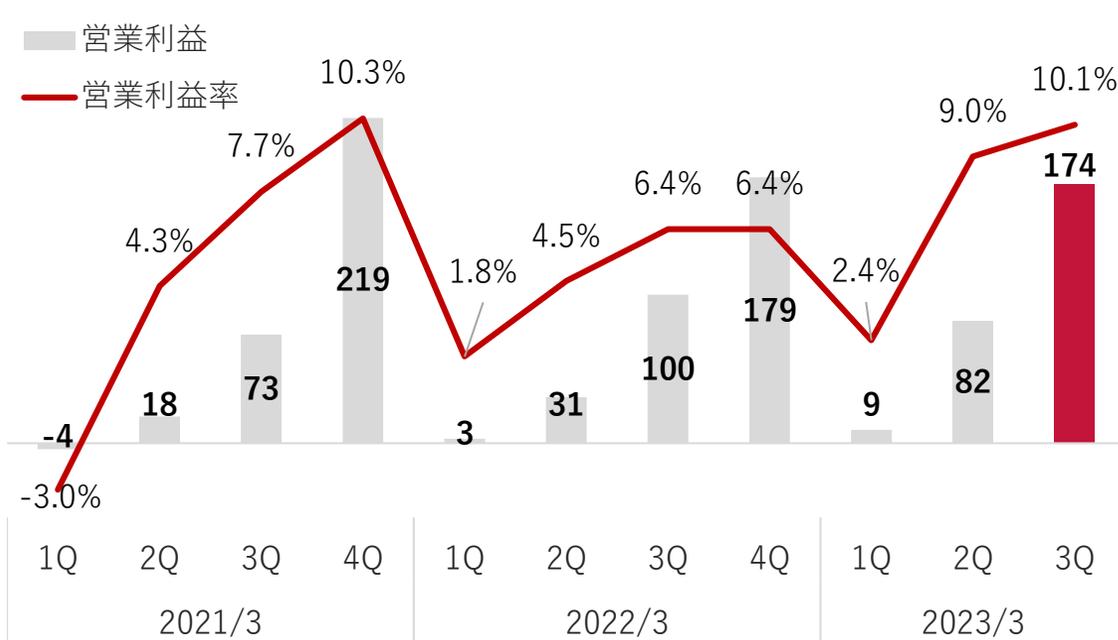


3Qとして過去最高益、順調に利益を積み上げる

営業利益 会計期間



営業利益 累計期間



- 販路及びビジネスモデルの影響から下期偏重の事業モデルであるが、第3四半期までに順調に利益を積み上げ
- コロナ禍及びウクライナ危機による部材の調達難及び原価の高騰並びに円安の影響により、利益率の確保に関し懸念点があるものの、部材の先行取得、付加価値の向上により、利益の獲得を推進

新製品を学会・展示会で紹介

学会・展示会への参加
【機器展示】

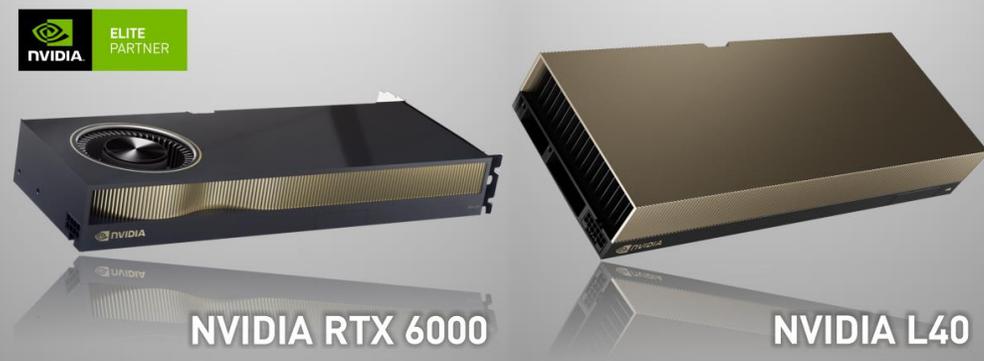
第36回数値流体力学シンポジウム
2022年12月実施

流体力学分野で活用する、メニーコア計算機や機械学習用計算機を展示・紹介

新製品ラインナップ拡充

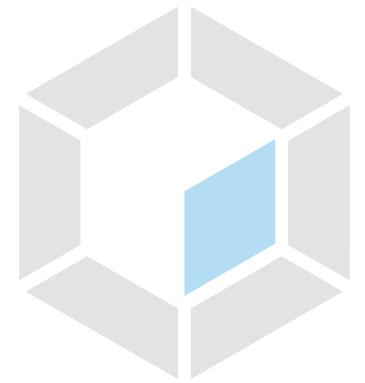
NVIDIA RTX 6000、NVIDIA L40 取扱開始

NVIDIA社製、Ada Lovelace アーキテクチャ採用のプロフェッショナルグラフィックボード NVIDIA RTX 6000 とデータセンター向け GPUアクセラレータ NVIDIA L40 の取り扱いを開始いたしました。前世代 Ampere アーキテクチャを採用した NVIDIA RTX A6000 や NVIDIA A40 よりも数倍の性能があり、ビジュアライゼーションやレンダリング等を扱うエンジニアやデザイナーのみならず、AI やシミュレーション等で GPUパワーを必要とされている研究者にも Ada Lovelace アーキテクチャ を採用した GPU は、今まで以上のパフォーマンスを提供します。



04-4

セグメント別概況 (その他事業－旅館事業－)

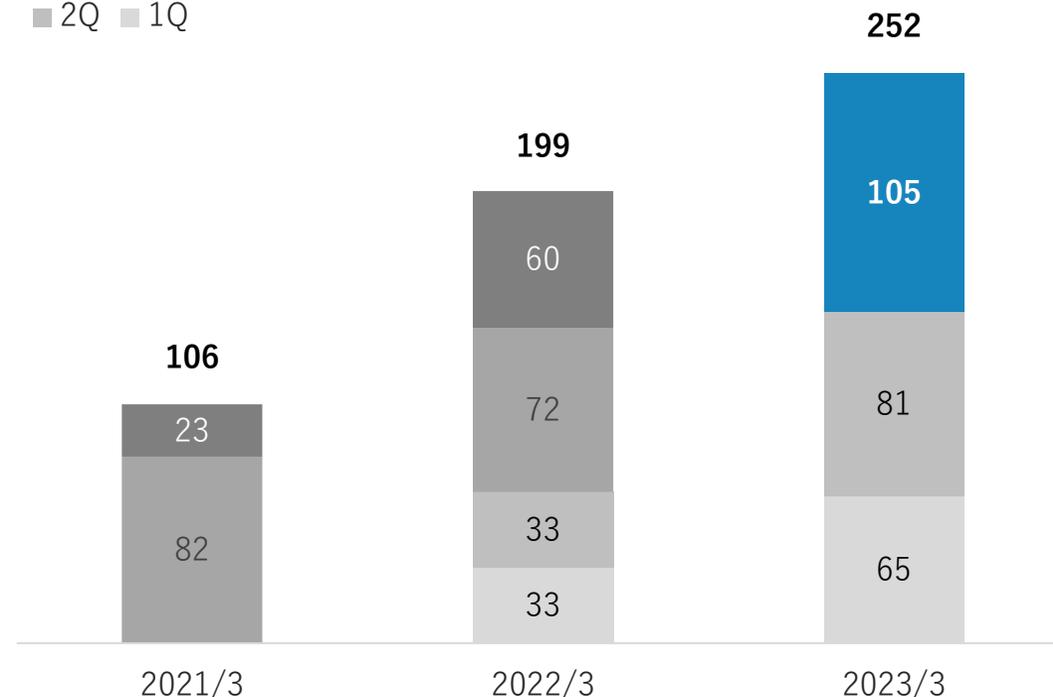


好調に顧客の獲得が進み単Q及び3Q累計ベースで過去最高の売上を計上

- 2020年10月より営業開始
- 行動制限の解除及び全国旅行支援などにより売上が伸長
- 今後もコロナ禍の影響の存在が否めないものの、行政による観光対策の活用、広告等集客施策の効果的な利用により新規顧客を獲得するほか、リピート客の更なる掘り起こしにより、安定的な収益の獲得に努める
- コロナ禍の副次的影響として、ペットの飼育数が増加しており、今後の潜在的需要先として期待

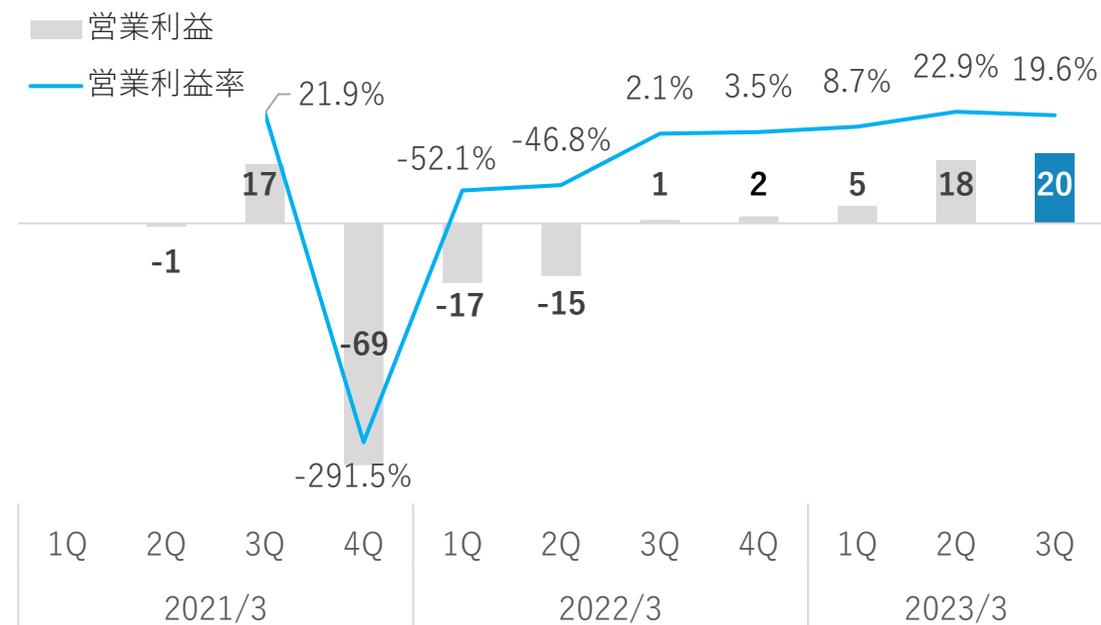
売上高

■ 4Q ■ 3Q
■ 2Q ■ 1Q

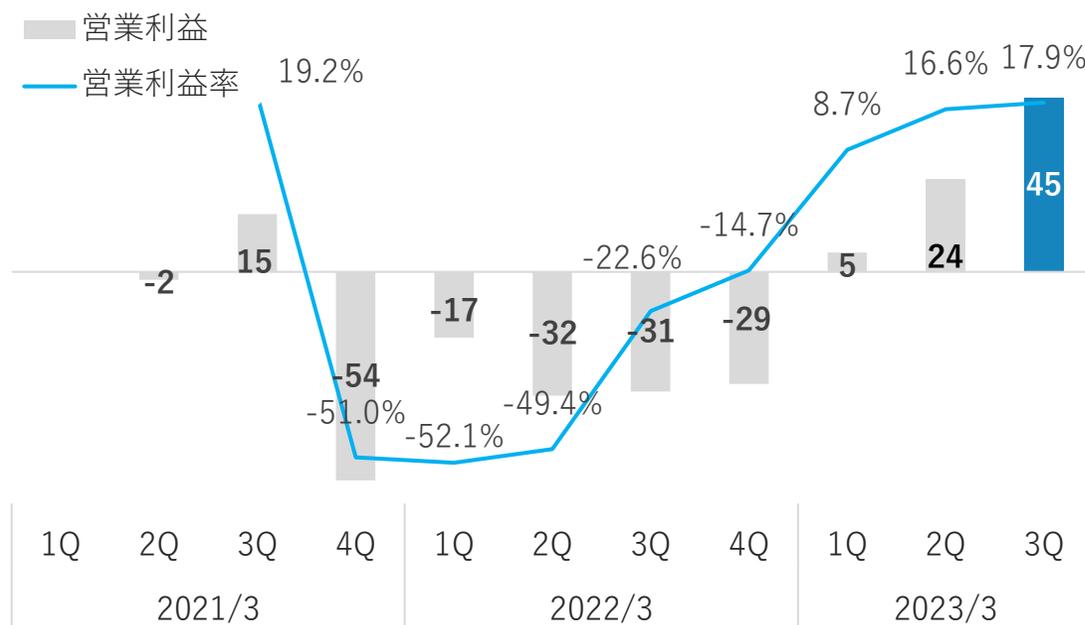


売上の拡大により、利益状況は好調に推移

営業利益 会計期間



営業利益 累計期間



- 利用客の増加に伴い客室の稼働率が向上し、売上ならびに利益状況についても安定的に推移
- 追加オプションによる収益機会の多様化により、収益環境を改善
- オペレーションの効率化による原価構造の見直しにより、利益率の向上を推進

ホスピタリティ溢れる接客により、同伴するペットにとっても最高の旅行経験とやすらぎの時をご提供

経験を積んだスタッフによるサービスの提供

お客様の大切なペットに、ストレス無く過ごして頂ける様に、十分な研修・経験を積んだスタッフによるおもてなしをご提供

特別室などには愛犬用露天風呂も完備

お客様用の露天風呂の隣に愛犬用の露天風呂を備えた特別室などをご提供。お食事もおやすみもペットとともに過ごせます

ペット専用メニューをご提供

鬼怒川の名産品を取り入れた、彩りが溢れるペット専用メニューをご提供



ペット同伴可能な宿泊施設として、 他の宿泊施設と明確な差別化を図った事業



伝統ある鬼怒川温泉でペットと共に 温泉旅行を楽しめる

江戸時代中期に開湯された歴史と伝統のある鬼怒川温泉で、ゆっくりペットと温泉を楽しめる宿泊施設をご提供

格式高い純和風旅館

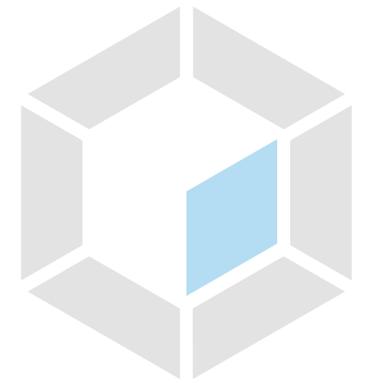
182平米の迎賓室をはじめ、専用露天風呂を備えたペットと共に過ごす事のできる大型の純和風の客室を多数用意

高付加価値サービスの提供

格安な宿泊施設では得られない、高付加価値サービスを提供することで、他のペット可宿泊施設との差別化を図る

05

参考資料



商号	株式会社AKIBAホールディングス（旧株式会社アドテック）
上場市場	東京証券取引所スタンダード（証券コード：6840）
設立	1983年2月17日
資本金	1億円（注）2022年9月1日付で資本金の額が1億円となる減資を実施いたしました
事業内容	持株会社としてグループ全体の経営戦略の策定・推進、グループ経営の監査、その他経営管理並びにそれらに付帯する業務
決算期	3月末
役職員数	320名（連結 2022年12月末日）
本社所在地	〒104-0045 東京都中央区築地2-1-17陽光築地ビル Tel：03-3541-5068(代表) Fax：03-6260-6258

役員	代表取締役社長	馬場 正身
	代表取締役副社長	堀 礼一郎
	取締役 CFO 管理本部長	五十嵐 英
	取締役 管理本部副本部長	富山 理布
	取締役 グループ監査室長	後藤 憲保
	取締役（社外）	丸山 一郎
	取締役（社外）	黒部 得善
	取締役（社外）	後藤田 翔
	常勤監査役	内藤 城次郎
	監査役（社外）	石本 圭司
監査役（社外）	西田 史朗	
監査役（社外）	中川 英之	
補欠監査役（社外）	藤浪 努	
会計監査人	KDA監査法人	
株主名簿管理人	三井住友信託銀行株式会社	

1980年代	1983.2	株式会社アドテックを設立（商号変更により現「株式会社AKIBAホールディングス」）
1990年代	1993.6	パソコン用増設メモリモジュールの製造販売を開始
	1998.11	日本証券業協会に株式を店頭登録
2000年代	2004.12	ジャスダック証券取引所（東京証券取引所JASDAQ（スタンダード））に株式を上場
2010年代	2013.5	株式会社エッジクルー（現 連結子会社）を設立
	2015.1	株式会社バディネット（現 連結子会社）を買収
	2015.10	株式会社AKIBAホールディングスに商号変更、新設分割により株式会社アドテック（現 連結子会社）を設立、 純粋持株会社体制に移行
	2016.3	iconic storage株式会社を買収
	2017.1	株式会社HPCテック（現 連結子会社）を買収
	2019.7	ウェブソリューション事業を株式会社バディネットに移管、通信コンサルティング事業に統合
2020年代	2020.5	株式会社ダイヤモンドペット&リゾート（旧 株式会社AKIBA LABO福岡）にて新規事業 （ペット同伴温泉旅館「鬼怒川 絆」の運営）開始
	2020.10	ペット同伴温泉旅館「鬼怒川 絆」 グランドオープン
	2020.10	株式会社バディネットが株式会社ランテンエンジニアリングを買収
	2021.4	株式会社バディネットがiconic storage株式会社と株式会社ランテンエンジニアリングを吸収合併
	2021.10	株式会社アドテックがシーアールボックス株式会社を買収
	2022.4	東京証券取引所の市場区分の再編に伴い、東京証券取引所スタンダード市場へ移行
	2022.10	株式会社アドテックがシーアールボックス株式会社を吸収合併
	2022.11	株式会社バディネットが株式会社リーバン（現 連結子会社）を買収
	2022.12	株式会社エッジクルーから株式会社アキバデバイスに商号変更

Business Domain

DXを次のステージへ

先進的なサービスを有するビジネスが集結

AKIBAホールディングスグループは多様なカテゴリーで社会全体のDX推進に取り組み発展させていきます。

